

教科名		道徳	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点		東京書籍	教育出版
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	- 各教材の最初に、学習指導要領で示された4つの視点と「視点マーク」で示している。 - 各学年の教科書の最初の教材の次ページに「学習の流れ」のページを設け、教材を通して考えたことを「つぶやき」としてメモをしたり、話し合ったりして自分とは違う考えに触れることの大切さを示したりしている。	- 教材名の右上にアイコンと帯の色で本時の学習が学習指導要領に示された4つの視点のどれに当てはまるか分かるように表現されている。 - ねらいとする道徳的価値に向かうための導入の発問が各教材の最初のページの右端に記されている。また、各教材の最後の「学びの道しるべ」には、主に教材に係る発問が2つ、自己を振り返り、考えを深める発問が1つ示されている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	- いじめ防止や生命の尊重の2つのユニットに3本の教材を設定して、全学年で意図的に学習することができるように工夫されている。 - 教材の後に、「考えよう」と「見つめよう」を設け、必要に応じて「考えをぐっと深める」を加えるなど発問例を設け、教材を自分との関わりで考えたり、自己の生き方について考えたりすることができるようになっている。	「いじめをなくそう」、「つながり合って生きる」、「いのちをかがやかせよう」の3点について、複数の教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を設け、いじめや持続可能な社会の在り方について、重点的に考えられるように工夫されている。 - コミュニケーションや話し合い等に関する「ひろば」のページが複数設定されている。また、「やってみよう」のページを通して役割演技等、体験的に学ぶことができるよう工夫されている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものにしているか。	- 防災を題材にして道徳的判断力を養う教材等を取り上げている。 - 登場人物が3年間かけて友情を育む物語、同じ登場人物の物語など、学年間連携を意識した教材が配置されている。	- 生徒の興味・関心を高めるために、写真、絵本、漫画などの多様な教材を取り入れている。学年間の系統性をもたせ、3年間を見通した教材が配置されている。 - 防災や人権、情報モラル、SDGs等、現代的な課題について取り扱っている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が入り込められているか。	地球温暖化やジェンダー、食料問題等、SDGsと関連して「道徳×SDGs」の教材として掲載されている。また、多摩市気候非常宣言にも関連した地球温暖化に関する教材が使用されている。	第3学年の「平和をつなぐ」「変わりゆく地球」など、環境に関する教材とコラムを組み合わせ、持続可能な社会について考えるユニットを設定している。
B 使用上の便宜について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	学期ごとに、学びを振り返る「自分の学びを振り返ろう」のページが配置されている。第3学年において、「卒業後の自分の生活の中で、どのようなことを心がけたいか」を記載できるようにしている。	各学年の教科書の最初に「さあ、道徳を始めよう」のページに、生徒が日常生活で直面することの多い場面を取り上げ、考えたいという意欲が高まるよう工夫されている。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	多摩地区出身のスポーツ選手が教材として使用されている。	多摩地区の医師に関する教材が使用されている。

教科名		道徳	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点		発行者名	
		光村図書出版	日本文教出版
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	- 各学年の最初の教材が「1.道徳の学習を始めよう」「2.道徳で大切にしたいこと」として設定され、道徳科で学ぶポイントや大切にしたいことが示されている。 - 教材の前に、学習指導要領に示された視点と内容項目が示されている。それぞれの教材には、「道徳的な問題を明らかにする問い」「道徳的な価値について理解や自覚を深める問い」の2つの発問が例示されている。	- 各教材の最初に主題が設定されたり、学習指導要領に示されている4つの視点を色分けして示したりしている。 - 教材に係る発問、自己の生き方についての考えを深めるための発問が各教材において1つずつ例示されている。また、各学年とも「学びを深めよう」として、教材から離れて自分自身について考えるコラムが設置されている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	「見方を変えて」では多面的・多角的な見方をできるように、「つなげよう」では他教科や日常生活へとつなげる発問が設置されている。 - 各学年で、生徒自らが問いを立て、考えを深められるよう、生徒が自分事として問いをもちやすい「友情、信頼」の教材を活用して「チャレンジ、問いを立てよう」を設定している。	「自立と共生」、「環境と未来」など、自分の生き方を見つめ直すことができるよう、各学年とも複数の教材をユニット化し、他者への共感性を高めたり、自分のこととして考え取り組んだりしていけるよう工夫されている。 - 道徳科と他教科等をつなぎ、自己の生き方について考えさせるための「視野を広げて」のコラムが設置されている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	「いじめを許さない心」、「よりよい学校生活を送るためには?」「共に生きるために大切なことは?」等、全ての教材がユニット構成されている。 35の教材に加えて、付録として4つの教材が掲載されている。	「いじめと向き合う」、「よりよい社会を考える」をテーマとして、複数のユニットが構成されている。 - 各学年とも、先人や今を生きる人物の多様な生き方に触れ、様々な価値観や生き方に出合える教材が設置されている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取入れられているか。	持続可能な開発目標と関わりのある教材には、「SDGs」のマークが記されている。また、各学年において、環境や人権、防災など、ESDに関わるコラムが2～3点示されている。	環境や貧困、人権、平和など持続可能な社会の発展に関わる問題について考えさせるコラムが設置されている。それぞれの学年のコラムでSDGs、持続可能な社会について等を考えさせる教材やコラムを使用している。
B 使用上の便宜について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	各学年の最終教材は、「一年間の学びを振り返ろう」が配置され、年度初めの第一教材で初めに立てた目標を思い出し、道徳の学びが自分にとってどのような価値があったのかを振り返ることができるように工夫されている。	道徳ノートが別冊として示され、学習の振り返りをしたり、成長を実感できたりすることができる工夫がされている。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	第3学年付録「日本の先駆者たち」に東京都出身の津田梅子が紹介されている。	第1学年の「視野を広げて 受け継ぐかたち・思い・地域のよさ」には、東京都の練馬区のアニメ制作が紹介されている。

教科名		道徳	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点		発行者名	学研
			あかつき教育図書
A 内容について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	・教材名の前に主題名は示さず、生徒が教材に興味をもつためのキーフレーズが記されている。また、テーマに係るアイコンが示されている。 ・道徳科で考える方法や考えを深めるための4つのステップを最初の教材の前に説明するページを設けている。また、教材の下にメモ欄を設け、気付いたことを書き留められるようになっている。	・それぞれの学年の初めの教材を「道徳 はじまりの時間」として設定されている。 ・各教材の後に、「自分を見つめて考える」、「考えを深める」の発問が記され、授業の最後に振り返りができるよう工夫されている。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	・「SDGs」「多様性」「キャリア」をテーマとして、全学年ユニットが構成されている。 ・「クローズアップ」に生き方の選択肢を増やす関連情報、「深めよう」に道徳の学びの提案が示されている。	・「いじめ」、「情報モラル」、「キャリア」の3つのテーマについて全学年、継続して学び深められるよう、教材が構成されている。 ・教材の後に配置した補助資料である「Thinking」で思考を促したり、「MY PLUS」を通して多面的・多角的に考えることができるようになっている。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	・各学年とも情報モラルに関する教材やコラムを設け、生徒が課題について考えることができるよう工夫している。 ・新型コロナウイルス感染症による行動制限を取り上げた教材、漫画形式の教材等を使用している。	・「自主・自律」、「思いやり・感謝」、「生命尊重」、「よりよく生きる喜び」を重点項目として定め、3教材ずつ配置されている。 ・各学年とも家族や地域との関わりに関する資料を使用し、家庭や地域と共に行う道徳教育が推進されるよう配慮されている。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	・巻頭にSDGsを表現したイラストを用い、現代的な課題への関心、取り組む意欲を生み出す工夫がされている。 ・各学年とも、2～3つの教材で構成するSDGsに関するユニット学習が設けられ、持続可能な社会を目指すために考える工夫がされている。	・各学年の巻末に、SDGsの視点から「持続可能な社会に向けて」というコラムが設けられ、17の目標のいくつかについて、学んだ教材との関連を示して振り返りができるよう配慮されている。
B 使用上の便宜について	(1) 生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	・日々の授業を通して気付いたことを「学びのメモ」に記したり、振り返ったりするための「学びの記録」が設けられ、生徒が自らの成長に気付いたり、深く見つめ直したりする工夫がされている。	・各教材で教材を読んで考える視点を提示して授業で考えるポイントを明確にしたり、「自分との対話」を示して、教材での学びを通して自分自身が道徳的価値について問い直すことができるよう工夫されている。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	・多摩地区の大学を卒業した人物を扱った教材が扱われている。	・東京都に関する和食や交通車両の写真等が使用されている。

教科名		道徳	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点		発行者名	日本教科書
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	・学習指導要領に示された4つの視点ごとに教材を連続して示されている。 ・各教材の後には、「考えよう」、「深めよう」の2つの発問が例示されている。	
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	・各教材の最後に「考えよう」「深めよう」の発問がそれぞれ1つずつ示され、生徒一人一人が教材について考えたり、自己を見つめたりすることができるよう工夫されている。 ・また各学年とも、巻末に内容項目と親和性が高く、よりよく生きるために大切なことが記されている「ウェルビーイングカード」が付いている。	
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	・第1学年では、「自己理解」、第2学年では「自己啓発」、第3学年では、「自己実現」をテーマとしている。また、情報モラルやいじめなど、現代的な課題に係る教材が配置されている。 ・先人についての教材、政治、スポーツ、文化、国際社会等で活躍する人物の生き方を描いている教材を用いて生徒が多様な生き方や着眼点について教材を通して触れ、多面的・多角的に考えることができるような資料を多く用いている。	
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	・各学年において、人権、福祉、環境資源、国際貢献、国際理解など、持続可能な社会に関わる教材を取り上げている。	
B 使用上の 便宜について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	・各学年の巻頭に、道徳授業のガイダンスについて記されている。また、「ウェルビーイングカード」の使い方についてやガイダンスが記されている。	
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	・各学年の巻末に「わたしたちの郷土」のページを設け、東京都出身の物理学者や科学者などが紹介されている。	